

用(本)省願伺屈
度諸方掛合面答

明治九年中

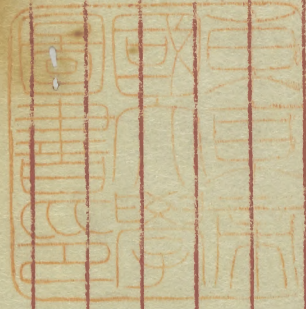
東京大学庶務課
5
五十年史料
210

明治九年一月ヨリ十二月ニ至ル

用本省願同届
度諸方掛合面答

第百九十八

東京醫学校



B 95496

表

用度課
庶務課

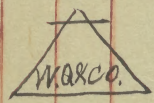
市川寛孝

左案之器械着港に成り付轉賣老名出港
右命左之証書所遺に成り可成致
明治九年一月

按

証

一 犯号



番号

四千九百九十番号分五千按差号迄
五千七按差号
四千六百番号分四千七百按差号迄
四千六百按差号分四千六百按差号迄

一個板

四板箱

一品名

裝束器械

一斤量

貳万貳千三百貳拾九斤

一元價

金五千五百五拾八円

一税金

金貳百八拾六円貳拾三銭七厘

外金貨貳百七拾七円九拾銭

ソ

右之當校製業學敷場用ニ付物逸國ト住文
今般米五千ヤイナ号ニテ学園別林府ワルムズニ
會社ヨリ西港ト向輸入ル第一般輸入ルニ教五
其ノ物品引取市被差許度也
明治九年二月三日

東京高等學校長

文部省四等出仕長與方子

横濱税関長

柳谷強太郎殿

東京大学

第三卷

収入

用度課

庶務課

山口清

案

以秋當校製筆學教師雇入并ニ化學的書器買
 入方相送下ニ注交教員并池田隆高并佛松遊
 歴中ニテ同玉留學生永井直安松本銑左衛門
 右周旋お托ニ受教師ノ人撰書器ノ善惡代
 價ノ高下間接ホニ奔走心切ニ致世話随テ操費
 等五少ニ失費モ有ニ越ニ付右在当トシテお
 當ニ金額送致お成可物方同玉公依ヨリを拙者
 迄心附申致実ニ自費留學中徒ラ奔走之為
 致儀有之留後思ハ其難儀不勘ト被致

此条今般右自当トシテ金百五拾円宛に送
申渡す當校補助金中ヨリお年一申取分
此より急にお返し

東京女子校長

主部省四等出仕長松昌子

又部大輔田中不二磨殿

校長

用度課

書器掛

市川寛繁

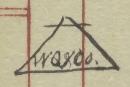
衆業學器械々般着港お第おに付テハ職
員之内出港主命左衆に証書所並にお奉
可物哉

明治九年二月七日

衆

証

一記号



番号

上石左券、六七十五号迄
下石左券、七十四号迄

一個数

式換式器

一 品名

製菓學器械

一 斤量

五千五百三拾八斤

一 元價

一 税金

ノ

右支當校製菓學教場用ニ供スル為メ獨ニ
國ニ注文ニ品今般字圖キリスチアン号ニテ同
本別母府ワルムブルニ今社ヨリ此港ニ向輸入
九条一般輸入ニ之般お偏及ト為品引取方
差許面致也
明治九年二月九日

東京醫學校長

長興乃乃

横濱税関長

村久強五郎殿

校長

庶務課

用度課

左記永角

別林ヨリ来着製菓菓子器械代通送金千円之
儀左ノ通存省ト由書之上字圖公使館通書
之成郵便ヲ以テ申送致す相成也

明治九年二月七日

進テ横濱シモニエーウスグリエール両社ヨリモ申並
様所申入致

案

一金貳千貳百六拾円也

新設師月以前迄之
一機械代前迄之

五月八族八寺相拂申狀物テハ前著通送金千兩
題テ所分致ニ於テ公侯館ニ留置ニ義部侯ヲ
以申並其衆國債寮ニ於テ方ニ儀ニ於テ取計
有之於狀致申進有也

順治九年二月八日

東京醫學校長

長興書局

本省

會升課矣

以

學國公侯伯子通知衆

金匱通選之儀集之甲子之方天有之幸事

一月十日附り以金貳千貳百六拾圓送致し右ノ内
金千圓を當校旧産教師ニエーエルト氏依託蒙
業學器械代ワルムブルン社よりお貸分り有る其
為原由其外照準舊額お添及の依頼置り受
同社ヨリイゲリヤ船ヲ以本金横出し尚又支那船
キエーナ号に積替本年二月申横濱クリエーセル
社に來着ニ付當校職員出張荷お指直致し其
未既ニ金千圓送達届ニ付其分ヲ引去不致し又
お後何お清取度方同社に申渡され共全數受
取毎々お荷お引渡方申渡り何分兼引
不致お取度地は津波致しおるも、お取度多分
お學仕教場差支ニ不少お留不致し別致し學費
九千百九拾五セルリ三拾貳ペシニ此本邦金貳千四

百貳拾五圓八拾八支お拂別紙請取証書を通りこ
有るお取度右に廻し申置り千圓ハ津波に
お成お付既ニワルムブルン社に渡し届てあり別紙
請取証書ヲ以來取し方お取計若し未お取金
あり其終止組に頼り置者之度右金要分
之儀支進可申進ト有る因横文有証書ハ
右社一覽届出ニお返有る成度其方お取金
迄及の依頼有也

明治九年二月九日

東京高等學校長

支那留學會社長松本君

學費在留

全權公使清水周之助殿

進石橋原シモンエーウスのグリユーニル兩社ヨリモ貴地
ワルムブルン高社ト申文ノ情態申在り橋原ノ有
り也

申文送致致し十月内百月ハ松本駐在ノ永井直安ハ
申文送致ニツ氏代官注文ニ自該署ニ送るなり

イゲリヤ船ヲ奉着勝文ノ狀

過ロドクトル、ニトウエルト君ハ送致致及申當ノ旨
趣ヲ貴校ヘ再陳セルガ爲ノ更ニ一書ヲ裁シ右
ノ旨ニ應答シ十月十五日ハ勘定簿ノ創本ヲ
併セテ進呈致され右勘定簿ノ表面ニ海上
諸金債ノ明細書ヲモ附記致し置たり也

右勘定簿中品物ノ外同様エゲリア号ノ燕
氣船ヲ以テ差立及二十二番ノ物品代價然
計五万六千五百七マルリ十五ペニニハ勘定簿并ニ
其海上受金債明細書ノ寫及ヒエゲリア号ニテ
差立及總計四拾番ノ品物運賃入費トシテハ
ニブルリ運賃入ヨリ差出及勘定書原本ヲモ併
呈イタシ且右運賃債モ已ニ了ル品物勘定
簿中ニ兼入イタシ有る右右第中品物あり

概月も勘定済と裏面、列元イタシ書有ニールウ
エルト君ヨリ直チニ注文お成座本年、六月一日
十月十五日兩度、弊社ヨリ、望立及シユミットヘンシユ
店ノ品相細為ノ原率を出る旨、又、店換
被下夜目、ニールウエルト君ノ依頼、受ケ、店
換後、金額ノ不足、千三百二マルク七十ペンニシテ、弊
社ニテ所立替、書有

又別紙、概計概表上、以テナルガ、めり、弊社、積込
ベキ、概額、七、八、百、八、拾、八、マルク、六、拾、五、ペンニシテ、二、五
五、替、金、ヲ、加、エ、テ、金、計、九、千、百、九、拾、五、マルク、三、拾、五
ペンニシテ、今般ノ積込、証書ト引替、ニテ、概換、グ
リヨールセル社中、に、所、換、シ、被、下、夜、目、社、ハ、弊、社
ニ、名、ヲ、以、テ、右、金、額、収、受、イ、タ、ス、可、キ、旨、委、任、イ、タ、シ

有、ミ、目、右、ハ、貴、校、ヨリ、同、社、ハ、お、當、ミ、ノ、取、料
所、遣、シ、被、下、夜、目、ヲ、モ、ト、概、申、進、シ、置、有
々、般、金、立、有、荷、お、海、上、番、異、費、地、ト、別、着、イ、タ、シ
有、ミ、確、受、お、成、座、概、理、イ、タ、シ、有、也

謹言

ワルムブルニハ横濱に於テお成座、お代金、概算
ニ覽、御、用、儀、迄、御、お、成、座、有、

ニブルン會社

東京醫学校

ル牛

但、概、外、概、算、グ、リ、ヨ、ール、セル、社、金、額、積、込、ノ、事、御、成、座、可、成、座、有、
有、



ワルムブルト横濱、能うお返しに代金御書
一覽は用済み返却お願ひ有

概目も勘定簿に裏面に列記イタシ置有ニール
エルト君ヨリ直チに証文お成度本年一月一日
十月十五日兩夜に弊社ヨリ望立及シユミットヘンシ
店ノ品物細目ノ原率を出る旨又此後
被下夜目ニールエルト君ノ依頼ヲ受ケ旧店
拂渡り金額ノ不足千三百二マルク七十ペニヒを弊
社ニテ所立替一筆有

又別紙概算概表上ニ照リナルガ如ク弊社ノ積
入金額七百八十八拾八マルク六拾貳ペニヒニ右
立替金ヲ加エテ全計九千九百九拾貳マルク三拾貳
ペニヒニ至ル今般ノ積算証書ト引替ニテ横濱グ
リヨール社中ノ所取に被下夜目社ハハ弊社
に名ヲ以テ右金額收受イタス可キ旨委任イタシ

有る目右に貴校ヨリ同社へお當り手数料
取遣に被下夜目エルト君申出置有
今般立有荷お海上番異貴地ト別着イタシ
お上確受お成度希理イタシ有也

謹言

大正七年十二月六日 創設者

ワルムブルン會社

日本

東京醫學校

小中

但此外横濱グリヨール社金貨積入ノ事御意可也
有

校長

用夜課
庶務課

山口清

明治九年

楊

敬業學教師廣入并化學上書器購求者親
切之世話教員永井直安外老名々々當金五
度云々伺出之其其書器之品類代金及
注文之時日以思會之趣教業知則別然
記教教之其以段及以若也

明治九年二月十日

東京高等學校

文部省

學務課長 山

人身究理學上書器買上分同様國旋致_三五

一金三千円也

明治六年正月廿七日同濟
但同八年七月字國通送分
未着

内

金千五百円也

教場并病室用諸器械

金千円也

書籍

金五百円也

顕微鏡并附屬器具

製藥學上藥品書籍代價

一金千円也

明治八年申註文費金別送
御渡分未着

内

藥品

四十二種

元素礦石等ノ集品

四揃

書籍

六十八部

校書

庶務課

用度課

吉田永有

字國下通達重之儀ニ付別紙寫之通奉省會
計課ヨリ申渡之ニ付テハ左ノ通取回着成可
被裁取伺也

明治九年二月十一日

案

外國黃金地方之儀ニ付令文百枚七号ヲ以テ申
渡之旨兼知致之付別紙調着之通有之付
之通達重達往文未之座一切毎之付因今迄

仕拂可致重負を来着之上毎之テハ増減能
お分り可別紙廣くハ検査之上國債票ハ報告
等之儀ハ然ル果計有之否依之及ハ國券也
明治九年二月

東京醫學校長

長興寺 富

本苗

會計課長

内件

学園に送金仕舞書

一 金貳千九百五拾五圓七拾五錢

是レハ昭和七年四月廿四日東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金仕舞書として送金したるものなり。此の送金は、東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。此の送金は、東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。

一 金壹万圓也

是レハ昭和七年四月廿四日東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。此の送金は、東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。此の送金は、東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。

一 金三千貳百五拾圓也

是レハ昭和七年四月廿四日東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。此の送金は、東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。此の送金は、東京府立第一女子師範学校より東京府立第一女子師範学校に送金したるものなり。

以差立て付置七年七月十四日奉旨工上納致に九分但来
着工上増減万有し事

一金五百円也

是レハ前同以教師雇入周旋トレテ併在致に在字必
当学生地回遊者多前同以に付在回日奉旨工上納
但納着工上上り成事

一金五百円也

是レハ都下前同以に付同年十二月廿八日奉旨工上納但
前同以

一金三千五百五拾円也

是レハ外人教師五名雇入に付奉旨納致に在字必
物命金権公校者才同意工上校日依納致に公校
船に附八年七月差立に付但来着工上増減万有し事

一金三千円也

是レハ教師添雇者納致に在字必在交代納致に
以同金當学生地回遊者多工上上り成事前同以
以八年七月当校日在公校組へ奉旨在右品着
工上校者必在社在組に付増減万有し事

一金千円也

鑑針

金貳万四千四百五拾五圓七拾五錢

此内九六十五圓程未着

右之通有し事也

明治九年二月

東京醫學校

明治七年

寫

明治八年三月八十七号内達書及外國
費金通市規則其節及内國達書其受該規則
中物品ヲ買入未タ代金拂渡サル等者有之
其具率由内務省報告之順序可承計
其有詳細内申出有之及地方及内照會取
也

明治九年二月四日

文部省會計課長

東京高等學校長

長樂寺高島殿

校長

用夜課
庶務課

山口清

第五拾八号

抄

数乗学化学教師雇入書器買入等尽力致
永升直安外を名に自當金差指度あり
其受書器到着之上実相り懸換し其尽力
功程の定めの相出者に照合し其致し
受教師雇入方と相りハ己に幾多の
力を用取教五拾円に減し各百円宛差指
器を送出し且以奉法交之教師雇入等
一層注意を致すの申到底差指儀に付
ナル方の就と海に条規あり再應お相り

明治九年二月廿四日

東京醫学校

事務

あや

紫田素性

庶務課

用度課

去理承有

校長

紫田素性 敬啟者 儀ニエールト氏依頼之件、金金
萬圓之於金千円不足之旨申出右に因り既
に金金千円公使銀に差違お成り受荷相横濱
来着之部、グリヨール社申出之旨も有之代金
全數お渡しにて自ラ元来右千円は同氏係金
ヲ以差立お成具申出、金金もお違有之奉一
應左に通郵便ヲ以て申出致お伺也

明治九年二月廿四日

追テワルムブルン社へモ左々文意ヲ以て申出致

Figure 1 consists of four panels, (a) through (d), each showing a plot of adsorption capacity (mg/g) on the y-axis versus initial concentration (mg/L) on the x-axis. The plots show that adsorption capacity increases with initial concentration and decreases with increasing pH. Panel (a) is for pH 4, (b) for pH 5, (c) for pH 6, and (d) for pH 7. The data points are represented by open circles, and the fitted curves are solid lines.

果毒ニテハ荷物引落難ク方申暮リ何分集引

順治九年 月 日

東坡全集卷之六

文部省書出仕長典方方

ニユーエルト君

衆衆學器械代

字國エ金子円差立偏ニ受機原

グリコーセルヘ皆金液ニ付

ワルムブルン高社エ書籍ニ担

衆衆學子器械代

金子円差立偏ニ受皆金液ニ付

衆衆ニ付ニ付字國

ニユーエルト氏エ書籍ニ担

右兩衆機文ニ付願ス

校長

庶務課

用度課

吉野永有

教師給料正金俸之數は左の通り奉書に申
致す可致致す可致也

明治九年三月八日

紫

一、金貨三千百五十四圓也

但平均百圓に於て
金貨百七圓に於て

金貨幣金三千三百三十三圓三錢五厘

右に當校雇入教師給料之儀奉邦金貨にて給
納致し各分紙幣ヲ以て補填致し奉邦金貨にて給

金ニテ後取致方取出依テハ前著ノ通り
一ノ年多分ニお金ニお成り為金ヲ以テ
以金ニ成り又其時ニお場ヲ以テ金文別
違以金ニ成り額費定限モ有ニ其為右面
様ニ因以金ニ成り其為右面也

明治九年三月 日

東京大学校長

文部省四等出仕長松有為

文部大輔田中不二彦殿

庶務課

用務課

吉野永有

校長

案

當校教授ドリトル、ヒルゲンドルフ同エツフェース同アシク
ニ三名本年二月ニテ満期ニ付雇續ニ著ル本年
十月中別紙寫ノ通相お係本月ヨリ五月ツラ雇
續ニ著ル右ノ内ヒルゲンドルフフンクニ兩名ニ洋銀
ニテ条約ニ付兼テ其布令ニ著ル本年邦金貸ニ
テ引込受取今正金ニお場致掛騰金百円ニ付
平均然幣百七円位ニ交換ニテ格外ニお金ニモ
お成り為雇續向三月月ニ給料ニ失張付前ノ通
洋銀ヲ以附與致ニ著ルニ条約寫お係其為

五回五回

明治九年三月

東京高等学校長

文部省四等出仕長樂乃公

文部大輔田中不二磨殿

本府より、口頭にて、お世直しの上、出ス

校長

庶務課

用夜課

吉野承有

教師雇経お成月給之俸、何れ之通り、本府寄
付課に掛合、お世直し五回

明治九年二月廿九日

案

當校教授ドリトル、ヒルゲンドルフ、同コツヒエース、同フナク
之三名、本年二月にて満期、お雇経之義、以八
年十月中、別紙寫之、通相お届、本月、五月迄
雇経之、お世直し、お布告之、おモ、お、洋銀、お、お、

本邦重寶に引連し方可原計學即今亦該院
行燈に付於前之通月給を海内石城殿に義書
送し申進置あり

明治九年三月四日

東京高等學校長

長嶋清吉

本首

會社課長

山中

當校教授ドクトル、ヒルゲンドルフ全コツヒエー全
フンクニ三名來れ九年二月中旬ニテ滿期之受
課業中半進ニシテ交代致し事ハ其不考念
有る思ハ右代領トテモ必ス二月中旬ニ來着致
し事ニお通フテヤ右難お定ニ有る其為ニ迫り
雇經之儀申請致しテハ拙學之隨意ニ事申請
判上不便ヲ生し事モ親分等ニ有る到底
冬々半致之修業即五月迄迄ニ雇經不申
おテハ不お叶義ニ有只今ヨリ雇經申請致し
至急お伺あり

明治八年十月七日 東京高等學校長

長嶋清吉

文部大輔田中不二磨殿

伺之趣從前之給料ヲ以雇次之儀不共其事
但給料等其校神和室之内ヲ以テ糸銀之
雇次之給之上条約書内和洋文各記述
九割ノ存出有奉

明治八年十月十三日



才百三號 在長ノ

所雇外國人給料之儀從前賃幣之品位一定
ナリサルヨリ洋銀ニテ支給致條約束及受已ニ新
賃所發行ノ券ヲハ以テ雇入及所ハ新賃幣ヲ以
給料支給致約束中位賃貨ヲ元ニ立テ可ハ添員
是迄雇入之分モ追々同様引直シ可様可致有
但所屬之上取對ニテ雇入及分モ同様可ハ心付
事

士申

四月廿五日

太政官

其校に雇教師給料之像是迄洋銀ヲ以て後
来に受先般金貸しに發行せ成るに付新に雇
入る者又之雇次第等之者ハ自今俾テ金貸に
依り様違置るに成る先削之月給ヲ以て雇
次第之に付ト而も有るに付之新賃ニテお給るカ
洋銀ニテお給るカ確トお分り置るに併先頃
違に置るに付之に有るに付之何レ新賃ニテ致
統約に事トハお給るに付之事故些少に及ぶ
故障相生に付ハ不都合に付向後雇入雇
次第之に付定約者金貸何百円ト認替同出
お給るに付之に有るに付之應違置るに付

壬申八月八日

東京大学

東京大学

本書

第一大學子區
醫學校

産経條約

當年五月三十一日迄私條約交へて後永知仕有
於旅費の爲に義一故可爲後領義仕有也
子ハ万七十六年二月廿八日

ドクトルコッヒユース
フンク同文

東京大学

東京大学

舊條約

嘉年五月二十日迄私條約迄之義に付帝國
日本文部省に領事官に言上仕在也
西曆七十六年二月廿八日

ドクトルヒルゲンドルフ

右延期に付再度條約に廢止を及ぼす

東京大学

東京大学

校長

用夜課

書器掛

市川寛孝

客年七月に任文お成り装束學器械今般
着港お成り三月に職負之内出港お成り
案之証書お成りお成り物成

明治九年三月十五日

案

証

一記號



番号

五百四十
五百五十四
五百六十二
五百七十四
五百八十六

九、七百十八 五百九十四

一個數

抜七個

一品名

製筆學子器械

一斤量

一元價

税金

右に當校製筆學子教場用ニ供スル為メ福乙
國ト往交之品今般字必ベローナ号ニテ同國
別丹府ヨリ横出ル受支那上海ニテコロヒン号、
横替山港ト向輸入ル第一般輸入之ニ般力
海及上物品引取方主差許度也

明治九年四月廿七日

東京醫學校長

長 豊 吉 吉

横濱税関長

柳谷謙太郎殿

校長

庶務課

用度課

左記永有

教師給料洋銀徴収儀に付事務部より同中に有るもの
受金簿より大蔵省より毎差支に徴収しお金に納め
既に出指令お納めを付し事務部より徴収教師に儀を左
に通知しお納めを付し

明治九年三月廿日

案

教師備給に儀に付再々

當校教授ドクトル、ヒルゲンドルフ同コツヒユース同フシリ

三氏本月より雇役お成りて有るに右の四ニル
ケンドルフフンリと兩名と洋銀兩と給約と有るに
此布告と有るに因り金貨この引取受取今正
金交換格外にお金に有る前に通洋銀より以て
教習共お成り中と有るに先般外教授給料
金貸条約にお金に有るに後此指合お成
お金こも不善者共にお金に有るに外教授給料
お金に有るに今月給は出るに給にお金に
お金に至るに指合お成り此指合お成り

明治九年三月廿一日

東京高等学校長

文部省四等出仕長松田高

文部大輔田中不二磨殿

校長

用後得

原勢得

市川寛繁

抄

當校製菓學子教師雇入及化學的書器買入
方等致國族及永井直安松本銑五郎
當金百円宛致贈貼有三月有以銀向差支
乃ワルムブルン社に可取分以果款之申進
因之内ヨリ本人共取分被取成度其及以
依頼有也

明治九年三月十二日

東京醫學學校長

長 陰 吉 乃

稻乙園在昌

青木特命全權公使殿

衆業學教師入撰雇入及化學的書器買入市
等及依頼其等松別所尽力に付右寄交之旨
當トシテ金百圓宛及贈教其以爲當有之旨
有也

明治九年三月十二日

東京函意校長

長樂寺高

各通

永井直安殿

松本銑吉殿

送金銀之青木公使殿中並並其旨公使

能より以清取おせ及也

校長

庶務課

用務課

左記永省

右より通し致し下致お相也

一金貳千貳百六拾圓也

金千貳百六拾圓也

新教師月給前貸し分
器械代返納し分

右支本年一月中申進字國公使館に追送致し
其受右之内子因之器械積加船米必チヤリナ号
横濱来着より即日所グリコーセル高社にて右
前金千圓差立お名申納し以共兼諾し致不
止止原價還賃全数お返し右子因之字必公使

紐在留置之儀申並方格本年二月八日申
進置其受回金留學生永井直安松平銑太郎
義當校教場用書籍器械等買上而松平君力
致之於之付お伺及未金留同の附與了致其内
指合者之依之在子用之内より金與致之其様
別紙寫之通之輕依頼及之有格致其國債
寮以重市之儀了然此來外有之受依之申進
也

明治九年三月廿四日

東京高等學校長

長興 為 高

本 省

會 外 課 中

多紙寫之通之

校長

庶務課

用務課

左 聖 永 高

本省學務課より別紙寫之通申紙之有格致
通及回金可致お伺也

明治九年四月十四日

本省學務課 案

當校教授ドリトル、ヒルゲンドルフ同フンク之兩名
洋銀条約之受附就雇經之付金貸引並之儀
學外之致接を以て照合之趣領義致之其右
支該利行雇之付条約書に並有記載可致

其旨兼テ差出墨紙條約和洋文各款通下先
此差出之者之及此國差也

明治九年四月十八日

東京醫學校

本首

學務課

ハナ

豊功子武振を以

本校教授ドリトル、ヒルゲンドルフ、外名兼テ洋銀
ニテ條約ニ付本邦金貨ニ引直シ受取今正
金お端附騰之折柄云々去三月九日附以何出ニ付
正金紙幣等お端之高下ニ拘總テ公布ニ照
準以來外ナ有云々同月廿二日附ヲ以及照會
書ヲ受取此回報無ク右云々何云々此差合カ成
以今以院申陳之條差文お条差急此回報有
之為以申進之也

明治九年四月二十日

文部省

學務課長

東京醫學校
ハナ

退テ本部金貨ニ引越シ後注米行極其金高
小條物等上記載詳細其極高可有之其以之
申臨有也

校長

庶務課

用度課

吉野永有

帝國陸文器械奉年三月中模倣シモンエーウス
社ト来着ニ受送状毎々其日終税関務入
お成居清取方ニ後文の取消ニお成居受同月正
十日辨正郵税金社ヨリ請求有荷物十個同印有
今般別紙掛ラ然案ニ通申越シ受取方所有
教裁お伺有也

明治九年四月廿六日

退テ奉文ニ通ニテ了物有職負之内出張有命

五福世及世也

校長

按

証

一記錦



番号

此個数族七箱

五百九十四
五百四十四
五ノ五百五十四
五ノ五百六十二
五ノ五百七十九
五百七十四
五百八十六
九ノ七百十八
一ノ六百四十八
五百九十四

用度課
庶務課

右立當校書業教場ニ依ルル爲メ猶乙圖ニ注文
之品今般其社ニ向テ輸入其所送狀ニ依リ
其本年三月中横濱十番佛國郵船會社
田中交部大紳宛ニテ該箇積載之荷物ト同不
可當校注文品ニ依テ送有之旨發見依テ
右悉皆以引渡五等貨物ニ異日右荷物ニ付何ハ
之事故出来其當校ニテ若テ来升其条取
申入也

明治九年三月

東京高等學校長

長興為多

ジエニエーワス社

中

庶務課

文書課

用務課

吉野永有

校長

新加學解刻學教場用ニ付播内ハ宛書卷有之
其宛宛承綿ニ依テ布達其成其ニ付テハ左ニ通り
東京府ニ向合可然致其付也

明治九年五月十一日

案

宛書卷ニ依テ付甲別該五等ヲ以テ今般府下
其布達有之其當校教場用ニテ一時校内ニ

蓄養致し其後モ有る者モ府下一般ノ室則通
水税及養育有る者又主官田切ノ所不及其後
其益功段一應此間合及ニテ也

明治九年五月

東京醫學校

東京府

ルナ

校長

庶務課

用務課

左様承有

デニツ氏帰國旅費之儀ニ付左ノ通奉省ト
問合下所成お世有也

明治九年五月廿七日

案

當校教師デニツ氏儀本年七月ニテ歸邦ノ受
伯國旅費之儀案約面議文書御寄共其裁裁
之右田中要官亭及所滞在中回至ニ於テ此
旅約之趣ニ付旅費料旅費共當校ヨリ仕拂有

二月難お分る局至急申中致有之故以是申
進其也

明治九年五月廿七日

東京醫學校

本首

會身課

以牛

校長

庶務課

用身課

左理永有

本年一月中旬別紙を通地院會事務局に掛合
左安未返戻金に二月於たを通り掛合可然
致お相お也

明治九年六月八日

案

當校旧雇教師ワリ子ル氏其れ明治六年中澤所
行に為理化學器械買上布致依此具首佐野
在理公使に文部省より依頼之上同年十二月

代價洋銀貳千八百料以役中其受右局に寄着
二月仕掛高及以向合其未別然當に通以回着
勿強金百七拾三月。三或四廻以差戻之傳本年
一月廿六日及以掛合其受未々以通戻毎に仕上り
支取局至急以差越有之及以段於及以掛合其
也

明治九年六月 日

東京醫學校

澳國地質金強務掛

小中

校長

庶務課

用度課

吉田永有

地質金事務局に於て通掛合可然哉如何也

明治九年一月廿六日

案

一金貳千九百五拾三月七拾五錢

地洋銀貳千八百料

地價貸六千六百拾五コルデン

右支當校旧雇教師ワク子ル氏去ル明治六年中

澳洲行之為理化器械買上而依托致之其
為佐理系統公使上支那省ヨリ依頼之上同年
三月前著之貨幣の海申の要右注文器械皆着
二付代價の仕掛高及の向合の未別然留之通の
國省之於之有之即今仕上勘定之取掛り
の強運局七族三月〇三或四或の差然有之及
及の掛合也

明治九年一月廿六日

東京醫學校

用夜課

澳洲物覽令致務掛

以中

寫

本校の買物代價立據金云々申進の受製作學
校之分之毎之致粒ワリ子ル氏上可打合各各作
開致系方及則同氏上打合各各受全製作學校
用品之替之有之趣申の各各以能進出の動
定着之の承消の下段付テハ更之別然勘定
差進及び右様の系知有之及右の各各
進及也以也

三月十三日

澳洲物覽令致務掛

東校醫學校

以中

[illegible]

買物代價愈高

澳貨六千六百五十九圓

並テ發見ニ據ルニ形ヲ棄テ
 乃チ武ホント據ルリニク代
 位英名ニホントニ有價貨據
 コルニハ據リフツキルノ交
 換

善引

澳貨三百八十五
コルテ

邑上、月々お返し
 金を内へ付塵貸しコレヲ
 勤換せりラツキエル半ノ交換

林金百七換三月。三歲四釐

右差引勘定書面之通者之於也

明治八年三月八日 漢語學堂校務掛

東校醫學校

以中

校長

用務課

支給掛

庶務課

左之通東京府下收税可物云

方書四拾五号 元

一金貳圓也

是之當校之備有之其大車或輛本年分收税

一金五拾貳

是之同以中車之輛本年分收税

右車税金及以送付其条受取証可物云有之云

右月

明治九年六月十四日

東京醫學校

東京府

小中

校長

用度課

吉野永有

本年七月以降額費之儀進テ一定之上所達可
お成り此共差向於前之額之基ニ受取方可取
計者本省ヨリ別紙之通達お成りて於テ先以
右之通奉省ニ致上申可致致お個有也

明治九年六月廿二日

案

明治十年一周歲

補助金控五万三千四百圓拾四

内

金五千四百貳拾圓

額外常費見込除

高金控万八千圓土々月割

一金九千圓

一ヶ月常費

右補助金之儀追テ一定之上以達有之此迄既入
年之費額之基キ以成其分以達之有テ先
以右之割合ヲ以月費以成其下段此段上申其也
明治九年六月

東京醫学校長

文部省出仕長與方名

文部大輔代理

文部大丞九鬼隆一殿

校長

庶務課

用務課

左記永省

別其府江文書籍器械模倣來着之受送狀具
他諸款為着不致之付同國に別紙之通而後差
立其受池田強之為致御狀に付テハ公使館ヨリ着
面差控之石處を難計左に於テ兼テ模倣税關に
概算ヲ以收税致置其差之有テ追テ日月繰延
及ニ於テ有勘定仕上ニモ差支有石其前差立其着
額据其係永井直安書本難太難而人ト宛左ニ
通於郵便ヲ以可申差金お伺也

明治九年五月廿四日

以八年七月中書籍器械買之儀以依頼致之
 分本年三月中旬未着致之其書款在見下
 申之引分方之差支別紙留之通池田君而後
 郵便差出之其以本年月中旬納之引分之行違
 お成公使館より書面可差支致之難外其石粉
 別紙留之通申之引分熱賢社下及且養生堂
 より石粉西君と買上局の依頼申進其空申之
 眉注交帳承寄也突合に受取似寄之座にお
 見在は是又別紙に留之引分方當感致し
 其右之情案に取置之上引分致之其引分は
 可然に所分下及以殿の依頼申進其也
 以九年六月廿七日

東京醫學校

長井直安殿

松本勉右衛門殿

校長

庶務課

用務課

吉田永有

横濱上米着荷物請取方トシテ職負出張致シ支
取調在受荷物ト有之及以長送狀毎々二付當收
荷物ト難定之及召請取時義モ至氣及之有左
之通郵便ヲ以テ字圖ト可申並致仕何カ也

明治九年三月十七日



控七番

九十日取 五万五千五百
五万五千五百 五万九千五百
五万五千五百 九万七千八百
七万五千九百 一ノ五万四千
五万七千四百 五万七千四百
五万七千四百 五万七千四百
五万七千四百 五万七千四百

右一孝著紀實品川彌水船本年三月六日御
船夕ナハス号ニテ本邦横濱来航ニ受右船中装
葉器械入荷物積込有之哉三月十日當校職員
出張回港十番商社來扱ニ付支了右調取送状
荷物共當校宛ニ付各々三月空發御束ニ受様又
三月十日回港發換五番シモンエーワス高社ヨリ前著
之通字五船ヘローナ号ニテ来著ニ付當校宛有之
其右再發檢査出張ニ受之海ニテコロニン号ヨリ
荷物積替来著之空ニ付共送状各々ニ付當
校荷物ト難定ニ付清取付ニ付叶空發稅關ニ
庫中ニ入置取付ニ付之依テハ右ノ多數右ノ第
以依頼ニ荷物積出ニ付又ニ未タ船積込右成
其發積込差送りニ付要分下取義ニ付送状共

勘定書付詳細に調之上要急に差取お成候何方
之著者に其意外に務め賃お當り右の同金事
以段に依頼及に也

明治九年三月廿日

東京高等學校長

長興寺方

池田隆之助殿

校

榮田義桂

庶務課

用務課

吉野永有

奉旨ヨリ西達ニ付於後横原ヨリ清水氏宛宛ニ寄
ニ付奉旨ヨリ西達並別ニ郵便長宛ニ通所分致
万松哉お伺有也

昭和九年三月二十日

案

WJR

扶第内

九第 仙田少ナイ号ニテ一月中奉旨
同マニガレ一号ニテ又奉旨

但外科器械理字器械書務類共

東
京
大
学

右を福之園ベルリシ府ヘルマンボーゲル氏ヨリ長友宛ニテ至急ニテ右横濱佛岡郵船會社ヨリ申出テ付右を當校ニ輸送品ニ有テ之ヲ送リ以テ此際當校ヨリ右為清永三月三十日職負差出テ受領必ヨリ概算ニ送状ヲ已列來致ニ品係勘定書其他證書可成筆書類々毎々以て出多分當校ヨリ昨八年七月申ニ注文致シ品可成有テ付海軍税其外仕掛致シ荷為諸所有者ニ有テ依テ之存必至急申達書類寄附ニ於テ開申可致之故先以此為以應申可也

明治九年四月十九日

東京高等學校

幸南 中

別件 事務部案



校箱 内

左記 仙臺船ターイ号ニテ一月申達書類九箱 日船マングレー号ニテ三月申達書類

但外科調理子器械書類類共入

當校用書類器械等買入方ニ有兼テ及以依頼置テ受領ト到着致シ不ト形此奔走之義ト致謝以事ニ就テハ右ニ箱別林府ヘルマンボーゲル氏ヨリ田中文部大輔宛ニテ到着ニテ右横濱佛岡郵船會社ヨリ文部省ヨリ申出因テ右諸原トシテ職負出張為致シ各送状ヲ已ニテ外ニ書類番々以て出右要友宛ニ付他省ニテ入用ニ器械トモ不右見當校注文品ニ有違有テ有教存テ付先ッ諸原申可

然ル三月廿日附以申進其別紙寫之荷物モ右局
ト同様之印之角是又並テ以依頼ノ由之可為之都
テ局數代價運賃諸費之内津當境商人陸取
証書之書類無之テハ税関收納并勘定仕等
差支有る甚ハ多數之至テ申蒙其治表右之書類
等悉皆來源ノ至急郵送其據賣主商人以掛
合被下役此致別テ以依頼仕有
一前件之外未着局之令ニ申上其局ハ既ハ以積出
其臨居可申ト收其治表其多數尚賣主ハ掛合
書類送狀共遠隔無ク差送其據為念ハ掛合
被下役右等之書類之レ毎リ優先ニ不分明ノ為
モ後ハ税関ノ務入ニ其治表益々藏敷勢ハ掛合義
ニ付此致以令ニテ以不計 被下役尚又及以依頼

有也

明治九年四月十日

東京商學校長

長 興 為 々 々

池田 藤 々 々 殿

進テ前書荷物之三月三十日清取申其受送狀有已
ニテ原價不分明ノ税関ハ之收税ハ送狀面受令
金之高ラ以テ一時仮納致置三月ノ後ニ至リ書類
取寄セ精算可致与掛合置有る以被下役以令ハ既文
至急以不計之儀以依頼申有也

校長

庶務課

書器掛

用度課

去歴承角

学園注文製葉器概括七個本年三月中横濱来着
之旨同所分括五款之モノ一ツスル申越し之旨有様
方トシテ職負出張命に受証書類毎々在任共
田中文部大輔殿に各宛ニテ来着常様荷付印
二月右括七個本年四月十七日同来場職負立會
之上一旦引取に受右之資生並注文之品にお達
毎之方今般別然之通申出右右荷付引取
以上税関に掛合並日葉場へ通知共左之通所分

熙治九年六月廿九日

番号

[illegible]

三十四ノ目達ニ致シ洋銀百五拾兩必証書ニ通收
稅致置在受今般東京南面替町甲族三番地
資生堂ト申當收出入ノ葉店ヨリモ同玉ト同品
注文列ノ買入方取扱ノ人物モ當様同様ニ付荷起
同印ニ付打混シ来着致シ右放行達ニお朱お白申
出ルニ付お改在受軒異同有クモ此共同店ニ注文
品ニお違無クモ有荷物引渡申在物ヲハ收稅等
儀モ更ニ同店ヨリ此規則ニ通シ納可致在り蒙
當收ヨリお納在り金銀モ出張之者ト此返付有
度著類お條地及此掛金也

順治九年六月三十日

東京医学校長

文部省四等出仕要略

横濱税関長

柳谷彌太郎殿

司業場へ通知案

一回印番号

右ノ字ニ付文製業器械横濱来着ノ受書頼
主益ノ為以長當校同荷為同平ニ月辛卯四月
廿七日正場當校兩所ノ職員同所出張致ニ進テ為
頼来着此一且受取ル受右ノ業店資生堂力
最テ同主付同局付文ノ受取夜同店ノ書頼来着
資生堂ノ品ニ出テ毎ニ分申出判付致ニ為

引渡申取依ノ為正心以申進者也

明治九年 六月廿九日

東京醫學校

司業場

以申

記

544
 55415
 56215
 567170
 5672
 5674
 586
 594
 5819
 62015

ノ推七箱

右先般船運國より葉品及器械へローナ号船より以
 積米あり荷物色々取調に要樂鋪より品にお達毎
 こに依り横濱税関より知方手録に基き幸而税
 價自に照準し更に於私共と納仕度就テハ業テ
 此後所より此立替有るに各ハ先般私共彼之地
 出港の上取下々達に此迄納仕度奉返り召し仕
 該之上り物此所分存致し有也

内り内設置及荷物控七和申日山下渡心奉為
掌取也

第一大區五小區奉西替所
甲十三番地

資 生 堂

明治九年六月三十日

山内 作左郎門

第一大學區

醫學校

事務課

山内

東京

第一大區二小區

和泉町老番地

醫學校

事務課

山内

從横濱

海岸通

五番

本区ヨリヘローナ号船積入之荷物控七和廻着
番号示左通

コロンビン船積替

WJR
44
55415
56215
569170
572
574
585
544
51819
62011

右之通水揚之五成を付至急以出張所引取可

社下也也

三月十四日

武治五番

シモンエウス

校長

庶務課

用務課

吉野永有

製菓器械操演より諸君は江島右主資生堂
荷物より税関に掛合を要するお納め御関税
差戻し別紙を通関者へお召掛り供出に費
有也

但シモンエウスは常務より差入票を様文宛書

モ資生堂より返納仕有

明治九年七月六日

東京大学

水四百貳拾五兩

本校製菓部の概先徴収税に上引果お成り受
右に菓店資生堂ヨリ注文品ト行達お成り
儀に付返稅市の果斗云々内掛合之趣致義知れ
即果前徴収之洋銀百五拾肆圓貳角致之至之資
生堂ヨリインウカイスに依テお當に收稅爲致申
お成り爲圓壹千進出也

九年七月四日

横濱税關長

税務課 即持公證大臣

東京醫學校長

文部省四等出仕長與者高殿

東京大学

校長

庶務課

用度課

吉野永有

案

陸軍少監

兼文部省四等出仕

池田謙之助

右本月廿一日拝命當校出初奉命於受月給を
陸軍省より所領せられたる又支當校より所領
所領せられたる右支當校より所領せられたる
五等と給せられたる以上當方、兼友と義と何回有、
一應所領せられたる支當校より所領せられたる

明治九年六月廿三日

東京大学

東京医学校

本苗

會計課

小中

九月八月高小郵便局 出立

校長代理

庶務課

用夜課

左理永有

本苗會計課より別紙寫し通申越し各要器械
書籍類注文代其外此年より本年一月よりこ
及通達右品と来着お待居あり己こ本年更に
品價下差立見込無し且教師旅費より充分に
別林公使旅費日兼て通達致し其内金三千五百円
残條有る以上と差支毛有る旨致し付左と通及
圓所可致致お伺有也

明治九年八月二日

案

東京医学校

當校に於て當會計年度中外必注文物品代
價都て外國に回送スベキ金額有之たり右豫算
英國送致限等詳細可申出右中紙に趣致
兼右方右左送達金に具込金に依て右
回致也

明治九年八月十日

東京高等學校

本商

會計課 以中

進て西端著之趣致兼右也

金部八百七拾六号

當校に於て當會計年度中外必注文物品代
價等總て海外に回送スベキ金額有之たり右
豫算英國送致限等詳細可申出右中紙に
趣致兼右方右左送達金に具込金に依て右
回致也

明治九年八月十日

文部省會計課

東京高等學校

以中

進て存文外必回送金英國送致限等之儀ハ毎
年四月一日^{此年第一}迄に各款一纏に致て大藏省
國債寮に納付可申出其趣に月當校に於て

王右班限前當課以申申報者之度坊名申係
在也

東京大學

校長

庶務課
用役課
吉野永省

案

海外に因送金之儀に付必債案より照合を以て
其中就之に趣致兼おの當校に於て留學學生派
遣之者毎々自今因送金に目途盡く其以
段及以圖を以也

明治九年九月五日

東京醫學學校

本省

會計課

以中

東京大學

東京大学
総合図書館

金九百三拾九号

海外に回送金之儀に付別紙に一通を後願より思
會者之に付貴校に送るに類有るに付
回送順次當課に以申就有るに付其申進
有也

明治九年八月 日

文部省會計課

東京醫學校

以中

貴省より海外各國に派遣之留學生来昭後十
年上并々年々學費金遣之に因送之に成儀ト
存之に於て今英米佛等より爲標に成儀有之
然下之省々有之故に際學費金其他因送金有
之故に因送致成可然存之に於て因送金有
申進之也

明治九年八月廿四日

擲 國債預

文部大臣

以中

東京大学
総合図書館

校長

庶務課

用度課

左記永有

補助金残存遺拂之儀に付何
案

本郷正用地内医学校兼病院新築之儀以年
来着々を経営罷在逐次其成金に要因より盛大に
建築ニテ付臨る金額ニテハ連々増加引延儀進んで申
及に其通り有る付テハ右家屋一時成切其其地
所周囲板垣并器械書籍其他貯物に納屋土庫
ヲ初メ校中二病室迄おふて至ルコト完備不致敷
有るに因テ本年六月ヨリ額金別紙に道敷除
其之其留右工費等分る不登可補其他有期

東京大学

必須用達充申右至急以許可五筆致以
段五何君也

明治九年十月五日

東京醫學校長代理

文部省醫出仕池田隆之助

文部大補代理

文部大丞九鬼隆一殿

明治九年六月ヨリ銀金

一洋銀四百兩

一金七百三拾六圓三錢九厘

内金五千三百五圓三拾六圓

明治八年ヨリ本年六月截止
仮換 定額常費

残金千八百三拾三圓六拾七錢九厘

一金千八百七拾三圓九拾七錢七厘

額外常費

計口

金金三千七百七圓五拾九錢六厘

明治八年ノ年々度
明治九年六月分全額

校長代理

庶務課

用度課

左理永有

本年額外常費諸取方之儀在之通奉省會
計課に掛合可然致仕個及也

明治九年十月六日

案

一 高金五千三百六拾円

明治九年七月ヨリ同十年
六月迄額外常費

内

金三千円

場庭可諸取分

東京大学

右支當校教師退任後滿期お成物致し、有る
旅費後并接待費共入用有る、且本郷教師數
新集共過一の及着手有る、先以書面之通金
三千円至急に給有る、致致、以申進、及也
明治九年十月六日

東京医学校

本首

會計課

以中

校長代理

庶務課

用夜課

左記永有

補助金強餘之儀、有別紙之通、本首より以達
有る、於て付テハ、左之通、以差申、お成、可物、致、お、何
致也

明治九年十月廿日

案

當校補助金前年より致、重之内、本年より、
在テ、支消之見込有る、分、其、費、目、詳細、在、附、録、
差、帳、ヲ、表、シ、テ、呈、上、ス、以、達、并、致、金、之、義、有、正

院ヨリ内達之次第ハ
之末班ニ當リ前段額金取除る已リ限リ一旦以
納付ナレバ取合ハ上申之条令計課ヨリ通知之
者共ニ詳々續々仕ル有テハ在金額新築費裁
分ニ不足ヲ補ヒ申上取合本月五カ附ヲ以テ相置
ナリ則其費用取調別紙後算帳ヲ製スル有
及回申ナレ

明治九年十月廿三日

東京高等學校長代理

文部省四等出仕池田謙高

文部大輔代理

文部大丞九鬼隆一殿

後算帳左取調中ニ有出条取合お係差出
可申上調正ニ上テ供以二覽ナリ

明治八年七月

同九年六月

經費殘餘越金内譯明細簿扣

東京醫學校

越金預算内譯

定額常費之部

一金三千七百七十圓五拾九錢六厘

營繕費

此譯

金五百五十圓

鮮割場用土藏新営

金五百圓

小使部屋新営

金五百圓

表門同番所共新営

金七百圓

校中敷物新調

金八百圓

藥庫新調并
校中ストウ新調共

金六百五十圓

下水新営地所高低
平均共

東京醫學校長代理

明治九年十月

文部省四等出仕池田謙齊

文部大輔代理

文部大丞九鬼隆一殿

校委代理

慮勢深

用夜課

老理永有

案

當校補助金今年度之豫算内御帳去九月
中善出之要右之内額外常費之部費豫算小
科目中教師黽二字新當之積有之其受控前
雇入教師之内先叙相之上増給ヲ以學料外之
教授兼勤者致之月テ之新來之教師或人ニ
減之申之月老宇建築致之其比之即今之在黽
ニテ今年度之量支之無之其物之新築之内
未々教場土着無之臨時之土木者藉器械之

置場所之差支多入建築之致其多難成
其別然務算更心致之通ヲ以テ所分致受
依之互相在也

東京農學校長代理

明治九年十月日 文部省署出仕池田強為

文部大補代理

文部大丞九鬼隆一殿

額外常費之部

一金千円

校中費

但接待費

一金三千六拾円

官繕費

此譯

金千五百円

教師館志宇新宮

金千五百六拾円

教場大土藏新宮

一金千三百円

外國人諸費

此譯

金千三百円

外國旅費

通計金五千三百六拾円

但滿期歸國旅費

校長代理

庶務課

用度課

左記永有

受業料之儀、前々別紙所記之通り、本年より、
有るに、原元未、右受業料之儀、當校起立
以来、右五箇年、受取、五年中、學制、改正、以
後、同年十月より、各生徒より、お納、お定規、お成
其比、お金、お出納、お定規、お多し、お同、六年、お
月、お定規、お混、お諸、お致、お受、お本、お省、お違、
因り、同年七月より、お金、お員、お應、お別、お立、お拂、お
成、お義、お有、おお、お前、お混、お合、お仕、お拂、お分、何
レ、お定規、お拂、お見、お致、お本、お省、お於、お更、お上、お仕、お上、お上

大務省より出た。此の右受業料を自ら
本省に上納し、安んずる。全當校限り、収入は月
毎に返す。その金分、有るに依る。たゞ、通
教回着の控を、お同様に。

明治九年十一月二日

案

當校に於て、取立の受業料、去る明治五年壬申
十月より同六年六月迄、金壹千五百七拾三圓
七拾六匁三厘七細、お分付、右大務省に
收入スヘキ。金員、多し。二月、右金額、般の返付
の、お分付、請求、入の、お分付、出、方、の、照、會、の、趣、致
録、並、に、明治四年より、お分付、右、海、市、の、控、の、お分付

省に、お分付、及、お同様に。

明治九年十一月二日

東京醫學校

本省

會計課長

山田

富加子三百七拾八号

貴校昭治五年十月より同六年六月迄受進料
金貳千五百七拾三圓七拾六錢三厘
計成居在受右主大務省且收入スヘキ
計右金額返付在案受取人氏有出省之
其及以照會有也

九年十二月一日

文部省會計課長

東京醫學校長

印

校長代理

事務主任

柴田素桂
庶務課
用度課

吉野永角

本箇より別紙を通申越し其の旨を左に通致回致
可致致上相致也

明治九年十一月廿八日

案

T 文
E 様

所用 中文部六輔

右記号の貨物を輸入し自引取市に依り
 税関より通知を因り此間各の課金に致し
 八年七月中教場因事藉器被注文致し代金
 三ヶ月迄送る内迄に着るは其未夕迄着不致
 依る右記号前に到着荷物同様、自當校注
 文品、可省に於物より船号并送状等あり
 此間より有るは此間各の課金に致し
 明治九年十一月廿九日

東京高等学校

中省

受付課

受付百四拾三号

写

ET
 m
 Excellency
 Tanaka

所用物田中文部大補

右に通知号あり貨物此間輸入し自引取
 様横濱税関より通知あり此間各の課金に
 心當り有るは此間各の課金に致し
 受付るに致す也

九年十一月廿七日

文部省受付掛

東京医学校

八年

梓呈仕於別紙E1号より五分本年五月以
獨乙出發に於て礫石薬品之類に可有之
存於別紙案文に通り尙下回國若に成
一の然事及に尙下生に此より出發に仕る相
冒の上爲る可申述に可也

二月廿八日

榮田兼柱

左様永有様

乱筆以別紙呈列

校表

用度簿

庶務簿

市川寛孝

市川寛孝

証

一 記号

ET
m

Excellency
Tanaka

一 個数

表個

一 品名

装束学器械

一 片量

一 元價

一税金

右に當校製藥學教場用ニ供スル爲獨乙國ハ
往文之品今般英五船ヲシヤニツク号ニテ以港口
向ヶ輸入及案一般輸入ニ子數在属及上物品
引東方及重之件度在也

明治九年三月五日

東京醫學校長代題

文部省四等出仕他田謹言

横濱税關長

本野亨殿

校長

用度課

庶務課

下山惣吉

カニ有様校長

度量衡旧器検査ニ係来ル廿五日ニテ取限在属
在百番及検査済有ニ其リ同日迄可差出在案
東京府ヨリ掛合然在ニ付以通知ニ其致テ案在
右ニ當校於テ検査済ニ分知シ其致及
以回答在也

明治九年三月十六日

東京醫學校

本番

倉井彌太郎

校長代理

事務主任

左記

庶務課
用度課

案

内務省出用外

三宅 秀

永坂雄策任理事

明治九年七月十日

内務省

右當校三等教授之受前著之通牒命之旨有之
来几十年前多寡金証候料本省より收之
了五部裁減及以同六部也

明治九年三月廿六日

内務省印刷三宅秀

永振准奏任五事

明治九年七月十日

内務省

前文指合書之署名出之及官印蓋以印外
可蓋下五也

三月廿六日

三宅秀

用夜課印

